

理工系新棟トリシアのランドスケープ

滋賀県草津市野路東 1-1-1

立命館大学理工系新棟トリシアは、キャンパスマスタープランにおいて、骨格軸の新たな終始点となり、学生達の回遊性や水や風等自然の循環性を高める役割を担うべき施設と位置付けられます。

建築施設や屋外環境に対しては、地球環境に配慮した環境実験棟として、また学生達の交流を生み出す居場所としての機能を発揮することが求められた。

このような基本方向から、特に建築と緑・水等のランドスケープが一体となった環境デザインとし、内外の空間全体が学生達の研究や楽しみの舞台として有効に活用されるとともに、建築・人・自然の持続的な関係形成の場となることを目指した。

主な具体策は、次のような点である。

建物に呼応した居心地良い空間をつくる

- ・二棟の間や、ピロティ、大屋根等に呼応し、木陰・水辺に涼風が気持ち良い広場やテラスを設け、学生の居場所を提供した。
- ・地形の高低差を活かし、階段広場やベンチウォール、芝生の丘等を配することで、腰を下ろしたり談笑等を誘う舞台を提供した。

優れた実践教材としての屋外環境を創る

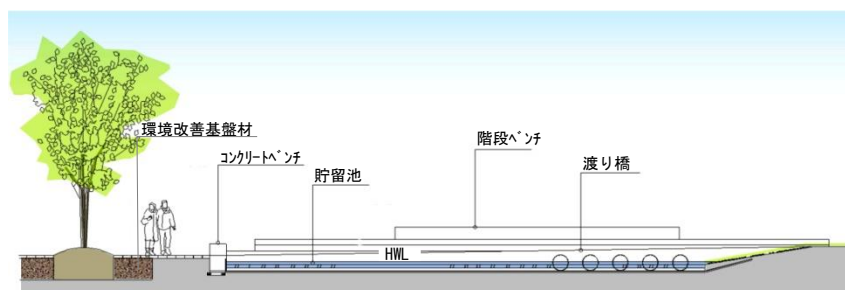
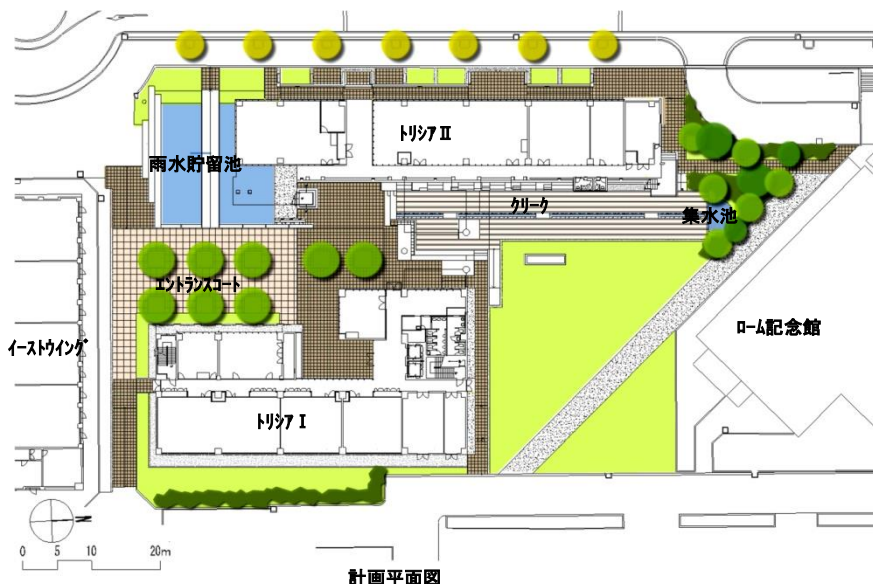
- ・雨水の循環利用のエコデザイン、生活環境と植栽デザイン、心理的効果と地形デザイン、エイジングと素材等、ランドスケープデザインの現物を教材として提供した。
- ・植物（芝生や低木を中心）や雨水活用施設等、微気象緩和や景観等良好な環境状況を保つために必要な維持管理体験の場を提供

事業者：学校法人 立命館

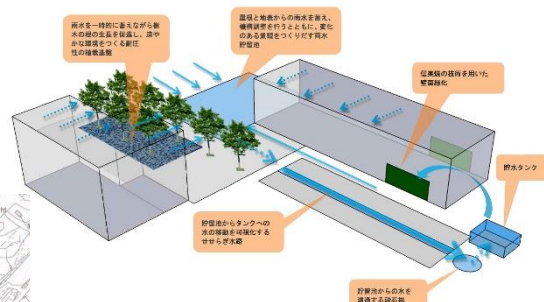
設計施工監修：立命館大学理工学部建築都市デザイン学科

設計監理：(株)安井建築設計事務所

施工者：大成建設(株)



雨水貯留池付近断面図



雨水循環システム



トリシアの全体像

BKC 理工系新棟トリシア

所在地：滋賀県草津市野路東 1-1-1

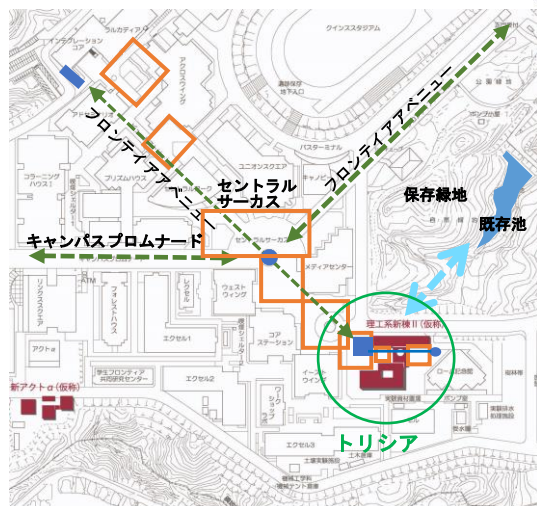
施設規模：敷地面積 590,050m²
延床面積 6,958m²

事業者：学校法人立命館
設計監理：(株)安井建築設計事務所、
ランドスケープ設計監理協力：
(株)現代ランドスケープ

施工：大成建設(株)
造園施工協力：西部造園(株)
植栽基盤技術・材料提供協力：
東邦レオ(株)

植栽：コブシ、サルスベリ、エンジュ、ヤマボウシ、カツラ、エゴノキ、ナワシログミ、シモツケ他

資材等：舗装/コンクリート平板・ブロック、階段・ベンチ/コンクリート打放し、池底/単粒碎石、ベンチ座板/黒系花崗岩水ミガキ



キャンパスマスタープランにおけるトリシアの位置付け



トリシアⅠ・Ⅱ棟間のエントランスコートと雨水貯留池

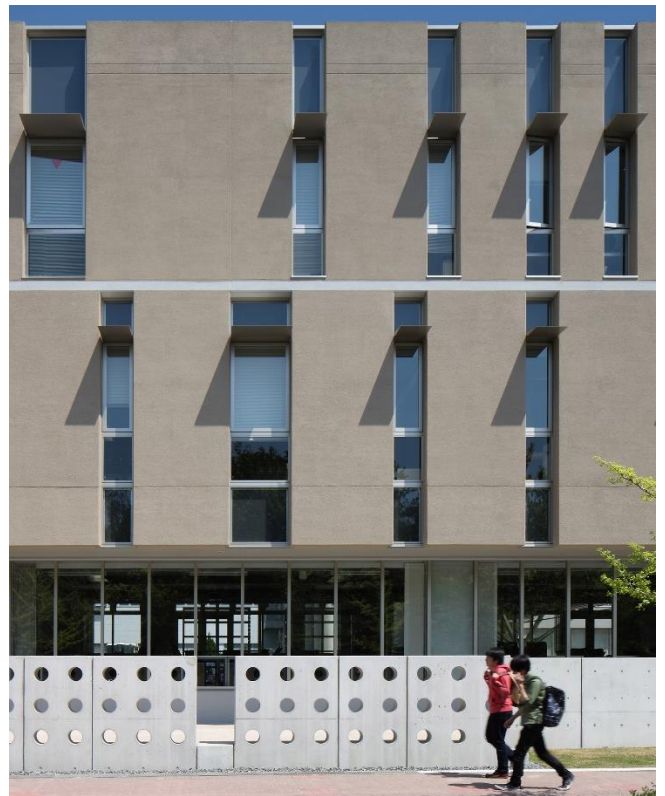
完成から未だ日の浅いトリシアでは、キャンパス中央方面から内外ともに視認性が高く、エントランスコートを中心とした開放的で緑と水が豊かな空間に、学生達は少し戸惑いながらも、日々慣れ親しみを感じつつあるようだ。設計意図をはるかに超えた、研究と楽しみの活動の場として使いこなされる日は、すぐそこに来ているように感じられる。

立命館の環境デザイン思想がそのまま具体化されたとも言えるトリシアは、未来のBKCキャンパスの歴史を築く先駆けとなるとともに、世界有数の高度な建築・環境・ランドスケープの教育を受けた多くの学生達を世に送り出す強力なエンジンとなることは間違いない。

（ 現代ランドスケープ：西辻俊明 ）



貯留池からの雨水が流れるクリークと集水池



トリシアⅡ西側の導入と滞留を促す壁や段差のデザイン